

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和6年度 110,804人団体〔個人:110,376人、団体・文庫:428団体〕(前年度比 98.6%) 令和5年度 112,396人団体〔個人:111,965人、団体・文庫:431団体〕(前年度比 95.8%) 令和4年度 117,298人団体〔個人:116,911人、団体・文庫:387団体〕(前年度比 108.8%) 《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 56,100千円 (56,100千円) ・ その他市が負担した費用 8,828千円 (8,877千円) 《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 22千円 (22千円)
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和6年12月10日～12月22日 ・利用者懇談会 開催日:令和7年2月5日

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	31/31
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。複合施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバック等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	勉強などにも使用できる自由閲覧席に紙箱とミニちりとりを設置し、その場で消しゴムかすを捨てられるようにしたこととで利便性が向上した。また、パスファインダー（調べ方ガイド）を関連図書やレファレンス（調べもの相談）事例集とともに月替わりで紹介するコーナーを新たに設置し、より便利に図書館を利用してもらえるよう図書館サービスの周知を図っている。 職員の教育・研修において、定例休館日に、個人情報保護研修やレファレンス研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	夏休み期間に実施した「ひろせ読書スタンプラリー」では、スタンプ達成者におすすめ本のカードを記入してもらい、回収したカードを学年ごとに館内に掲示することで、新たな本との出会いの機会を提供した。 また、毎年好評を得ている仙台市天文台との連携事業において天文台ロビーでの出張図書館の実施や、仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携による「サイエンス工作会」での資料票から本を探すゲームの実施など、工夫を凝らした新たな取り組みにより従来事業のさらなる内容の充実を図っており、図書館のPR、来館機会の創出につながっている。	18/16

三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
令和6年度の図書館運営は、安定した運営を継続しつつ、既存の各種取組における内容の充実に積極的に取り組んだ。 1. 基本業務は、アウトリーチ型事業の拡充に取り組んだ。新しい取り組みとして、認知症カフェでの大型絵本・大型紙芝居の読み聞かせ、大倉ふるさとセンターや栗生小学校PTA主催イベントでのおはなし会を実施した。 2. 自主事業は、積極的な事業の実施により年間の事業参加者数が延べ5,837人に上った。例年反響の大きい館長講演会は「二十世紀の事件学」のテーマで開催した。複合施設連携事業としては、広瀬市民センター講座で資料展示・ミニブックリスト配布を継続したほか、広瀬文化センター・広瀬市民センターとの連携事業「ひろせの森 クリスマスワークショップ」でクリスマスをテーマにミニおはなし会を実施した。 3. 利用実績は、令和5年度比で1日あたりの利用者数(延べ人数)は5.4人減、貸出冊数は38.9冊減、返却冊数は38.6冊減といずれも減少が見られた。令和5年度から続いている利用減少傾向を受け、認知拡大と新規利用者の開拓を目的に、広報紙「広瀬図書館だより」を宮城総合支所管内の町内会等で回覧する新たな取り組みを開始するなど、利用回復に向けた施策に注力した。 4. 職員に対する教育研修は、リモート参加の利便性も活用しながら積極的に参加した。研修報告書の作成による研修内容の館内共有についても適切に継続することができた。 5. 運営の評価は、市民図書館による定例監査への対応を通じて適切な図書館運営の継続に努めた。「利用者アンケート」は、WEBフォームでの回答を積極的に案内した。オンライン回答件数は全体の2/3を占め、回答者の利便向上と集計作業の省力化に成果を得た。 6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、広瀬文化センターとの連携により効率的な施設管理を行った。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
こども読書活動推進に資する事業として、中高生の選書アドバイザーによる選書支援・ブックリストの作成などを継続して実施したほか、大倉ふるさとセンターや栗生小学校PTA主催イベントでのおはなし会など、アウトリーチ事業を拡充させ、積極的に読書活動支援を行った。また、幼児から中学生までを対象に夏休み期間に毎年実施している「ひろせ読書スタンプラリー」では、スタンプ達成者におすすめ本のカードを記入してもらい、回収したカードを学年ごとに館内に掲示することで、新たな本との出会いの機会を提供した。開催期間中は新規登録者数も大幅に増加しており、図書館の利用促進にも効果的な事業だと評価できる。さらに、集客の難しさが課題である10代対象の読書会では、チラシの見出しの工夫や内容にゲームの要素を取り入れることで、小学生から大学生までの幅広い層の参加を得た。 毎年好評を得ている仙台市天文台との連携事業においては、天文台ロビーでの月や天文の関連図書を展示し貸出等を受け付ける出張図書館の実施や、仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携による「ひろせサイエンス工作会」での資料票から本を探すゲームの実施など、工夫を凝らした新たな取り組みにより従来事業のさらなる内容の充実を図っており、図書館のPR、来館機会の創出につながっている。 図書館内においては、勉強などにも使用できる自由閲覧席に紙箱とミニちりとりを設置し、その場で消しゴムかすを捨てられるようにしたことで、利便性が向上するとともに美観が維持され、職員の作業負担軽減にもつながっている。また、パスファインダー（調べ方ガイド）を関連図書やレファレンス（調べもの相談）事例集とともに月替わりで紹介するコーナーを新たに設置し、より便利に図書館を利用してもらえるよう周知を図っている。 職員の教育・育成においては、個人情報保護研修やレファレンス研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、ブックトーク研修やバリアフリー研修など、職員の資質向上のため積極的に各種研修を受講している。 以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館